

日中両言語における人名詞の解釈に関する研究

— 指示詞の省略可能性の観点から —

陳 嫵 如

Interpretation of Personal Nouns in Japanese and Chinese:

Possibility of Omitting Demonstrative Adjectives

Yen-Ju CHEN

キーワード：日中対照研究, 指示詞, 省略可能性, 人名詞, 叙述の類型

1. はじめに

談話のある要素の解釈が別の要素の解釈に依存する場合、結束性が生じる。結束性は、文法を通して実現されるものと語彙を通して実現されるものがある。ハリディ・ハサン (1997) は、前者を文法的結束性 (Grammatical cohesion)¹⁾、後者を語彙的結束性 (Lexical cohesion) と呼んでいる。そのうち、語彙的結束性に関しては、同一語の繰り返し (Repetition) によって、先行詞をさかのぼって指示する時、英語では、ほとんどの場合、指示詞 (典型的には the) を伴うと述べられている (ハリディ・ハサン 1997: 366)。それに関連して、庵 (2007) は、英語のような定冠詞を持つ言語では、文脈内で2度目以降に出現した同一名詞には、必ず何らかのマーカが必要であるのに対し、日本語のような定冠詞を持たない言語では、同じ場面において、マーカ無しで表すことができると指摘している。

(1) a. フレッドが教室である面白い本の議論をしていた。私はその後、彼と {その/Ø} 本について議論をした。

b. Fred was discussing an interesting book in his class. I went to discuss {the / *Ø} book with him afterwards.

(庵 2007)

言い換えると、指示詞の省略²⁾は、定冠詞の有無とかかわっており、定冠詞を持たない日本語では、語彙的結束性のみで文の結束性が保たれ、指示詞が省略可能であるということである。

しかし、日本語では、指示詞が省略できると言っても、すべての場合において同一名詞の繰り返しにより、照応詞が先行詞と同定できるというわけでは

ない。また、類型論的に日本語と類似した言語にも、指示詞の省略可能性が当てはまるかどうかは不明である。

では、どのような場合、指示詞がなくても、照応詞は先行詞と同定できるのか。また、日本語以外の言語においても同様の現象が観察できるのだろうか。

本研究は文の叙述の類型による影響に着目し、指示詞がなくても先行詞と同定可能な場合の条件について検討する。具体的に、同じ定冠詞を持たない中国語における指示詞の省略可能性を分析した上で、日本語との異同を検討する。

2. 先行研究の成果と問題点

日本語の指示詞の省略について論じた先行研究は、指示対象の名詞の定性³⁾および叙述の類型の違いによる影響の観点から分析を行っている。庵 (2007)・史 (2008) では、(2) のような定性の高い普通名詞と比べると、(3) のような定性の低い抽象名詞の場合は、指示詞が省略しにくいと指摘されている。

(2) 私は犬を飼っていた。しかし、{その/Ø} 犬は去年死んだ。(史 2008)

(3) 私は今ある言葉を習っている。{その/*Ø} 言葉は難しく大変だ。(史 2008)

それに対し、中国語では、名詞の定性が低いため、抽象名詞の場合はもちろん、指示対象が普通名詞の場合でも、指示詞の省略が許されないとされている (史2008)。(4) と (5) は史 (2008) による (2) と

(3) の中国語訳である。

(4) 我 養過 一隻狗。但是 {那隻/*〇} 狗
私 飼った 一匹 犬 しかし その 犬

去年 死了。

去年 死んだ (史 2008, 逐語訳加筆)

(5) 我 在學 一門語言, {這門/*〇} 語言
私 勉強している 一つ 言語 その 言語

很難, 學起來 很辛苦。

難しい 勉強する 大変 (史 2008, 逐語訳加筆)

一方, 陳 (2014a) では, 指示対象の数量に着目し, 日中両言語における指示詞の省略可能性を分析している。中国語では, (6b) のような指示対象が単数の場合, 指示詞が省略されにくいのに対し, (7b) のような指示対象が複数の場合, 指示詞の省略に対する容認度が上がることが指摘されている。

(6) a. 山田教授の研究室を一人の学生が訪れた。
{学生/*一人の学生/*その学生} は, 副助詞の分類について教えてほしいと言った。

b. 有 一名學生 到 山田教授 的 研究室
いる 一人 学生 行く 山田教授 の 研究室

拜訪。{學生/*一名學生/*那名学生}
訪れる 学生 一人学生 その学生

詢問了 教授 關於副助詞 的 用法。
質問した 教授 関する 副助詞 の 用法

(陳 2014a)

(7) a. 山田教授の研究室を三人の学生が訪れた。
{学生⁴⁾/*学生たち/*三人の学生/*その学生たち} は, 副助詞の分類について教えてほしいと言った。

b. 有 三名學生 到 山田教授 的 研究室
いる 三人学生 行く 山田教授 の 研究室

訪。{學生/*學生們/*三名學生/*
訪れる 学生 学生たち 三人の学生

那些學生} 詢問了 教授 關於 副助詞
その学生たち 質問した 教授 関する 副助詞

的 用法。

の 用法 (陳 2014a)

さらに, (2) と (3) は普通名詞と抽象名詞という違いだけではなく, 第2文の叙述の類型も異なっ

ている。陳 (2014b) は, この点に着目し, 日本語では, 指示対象が定性の高い普通名詞の場合でも, 文の叙述の類型の違いにより指示詞の省略可能性が異なると述べている。

(8) a. 公園で (一人の) 子どもが遊んでいる。
{その/*〇} 子どもは犬を追いかけている。

b. 公園で (一人の) 子どもが遊んでいる。
{その/*??〇} 子どもはかわいい。

(陳 2014b)

叙述の類型は, 時間軸上の発生の有無により, 大きく「事象叙述 (Event predication)⁵⁾」と「属性叙述 (Property predication)」に区別されている (益岡 1987)。(8a) の第2文は, 時間軸のどこかで発生する事象叙述であり, 個別的な指示対象 (特定の子ども) に関する出来事を示している。それに対し, (8b) は特定の時間的制約を受けない属性叙述であるため, 個別的な指示対象の属性 (特定の子どもの属性) も総称的な指示対象の属性 (一般的な子どもの属性) も表すことができる。このような違いは, 照応詞が先行詞と同一指示物として解釈できるかどうかに影響を与えていると考えられる。

以上をまとめると, 定冠詞の有無という観点からみれば, 中国語も日本語と同様, 定冠詞を持たない言語という点で共通する。庵 (2007) の指摘が正しければ, 中国語でも, 指示詞の省略が可能だと予測できる。しかし, 史 (2008) のように, 中国語では, 名詞の種類を問わず, 指示詞が省略できないと述べる研究や, 陳 (2014a) のように, 指示対象が単数以外の場合, 中国語でも指示詞の省略に対する容認度が上がると指摘するものもあり, 結果が一致していない。また, 日本語において, 指示詞の省略にかかわる文の叙述の類型という要因は, 中国語においても影響を与えているか否かは不明である。もし, 影響があるとすれば, 指示対象の数量という要因とはどう関わっているのだろうか。

3. 研究課題

以上の問題点を踏まえ, 本研究は, 次のような課題を設ける。

課題1: 中国語では, 指示対象が単数の場合でも, 文の叙述の類型が事象叙述か属性叙述かにより, 指示詞の省略可能性が異なるのか。

課題2：指示対象が単数の量詞に限定されていない（裸の名詞の場合、指示詞の省略可能性は、日中両言語とも文の叙述の種類の違いによる影響が観察されるのか。

本研究では陳（2014b）に倣い、母語話者による自然さの5段階評定法の質問紙調査を行った。

調査協力者は、課題1は日本国内の日本語学校もしくは大学に在籍する中国語母語話者15名である。課題2は、日本国内の大学に在籍する中国語母語話者、および日本語母語話者それぞれ15名である。

課題1の調査文は、陳（2014b）で用いた日本語の調査文を中国語に訳したものである。先行詞を単数の人名詞⁶⁾に限定し、第2文が事象叙述もしくは属性叙述である文と組み合わせ、照応詞を「指示詞＋名詞（以下、那個＋N）」、「裸の名詞（以下、N）」の2種類に区分したため、計16問である。

課題2では、課題1の調査文に加筆修正したものをを用いた。日中両言語とも先行詞を裸の名詞に統一し、照応詞を「指示詞＋名詞（以下、その＋N／那個＋N）」、「N」、「指示複数形＋名詞（以下、その＋Npl／那些＋N）」、「名詞複数形（以下、Npl）」に区分したため、計40問である。すべての調査文はランダムに1問ずつ提示した。先行研究の指摘から、以下のような結果が予測できる。

(9) 叙述の種類と指示詞の省略可能性とのかわりに関する予測

叙述の種類の違いは名詞が個別的な指示対象として解釈されるか、総称的な指示対象として解釈されるかに影響を与えるため、中国語においても、先行詞が単数か裸の名詞かを問わず、第2文が事象叙述を表す述語が用いられる場合、属性叙述を表す述語より、指示詞の省略可能性が高くなる。

評定は、「1：不自然」、「2：どちらかというと不自然」、「3：どちらとも言えない」、「4：どちらかというとも自然」、「5：自然」の5段階から、平均値が4以上の場合を自然な表現として扱った。3未満の場合を不自然な項目として「??」と、3～4の間の項目はやや不自然なものとして「?」と記す。

4. 結果

4.1. 課題1について

調査の結果は次の通りである。以下、aが事象叙

述を表し、bが属性叙述を表している。

(問1) 房間裡有一個男人。

- a. {那個/??} 男人正在喝啤酒。
- b. {那個/??} 男人酒量很好。

(訳：部屋に一人の男がいる。a. {その/} 男はビールを飲んでいる。/ b. {その/} 男は酒が強い。)

(問2) 隔壁搬來了一個外國人。

- a. {那個/??} 外國人在院子裡蓋了狗屋。
- b. {那個/??} 外國人對女性很體貼。

(訳：隣に一人の外国人が引っ越してきた。a. {その/} 外国人は庭に犬小屋を建てた。/ b. {その/} 外国人は女性に優しい。)

(問3) 公園裡有一個小孩子在玩耍。

- a. {那個/??} 小孩子在追著狗。
- b. {那個/?} 小孩子很可愛。

(訳：公園で一人の子どもが遊んでいる。a. {その/} 子どもは犬を追いかけけている。/ b. {その/} 子どもはかわいい。)

(問4) 有一名學生到山田教授的研究室拜訪。

- a. {那個/??} 學生詢問了教授關於副助詞的用法。
- b. {那個/??} 學生很認真。

(訳：山田教授の研究室を一人の学生が訪れた。a. {その/} 学生は教授に副助詞の用法について聞いた。/ b. {その/} 学生はまじめだ。)

各項目の評定値の平均を表1、事象叙述・属性叙述別の結果を表2で示す。網掛けの部分は回答の平均値が4以上の項目であり、自然と思われる項目で

表1：【課題1】各項目の評定値の平均

	指示対象	中国語		日本語（陳 2014b）	
		那個＋N	N	その＋N	N
事象叙述	男	4.1	2.3	5.0	4.6
	西洋人の男	4.3	2.0	4.8	3.9
	子ども	4.1	2.2	4.9	4.2
	学生	4.5	2.7	5.0	4.3
属性叙述	男	4.5	2.1	4.9	3.9
	西洋人の男	4.3	1.5	4.7	2.9
	子ども	4.0	2.9	4.8	2.3
	学生	4.3	1.7	4.9	2.2

表2：【課題1】叙述の種類別による評定値の平均

	中国語		日本語	
	那個＋N	N	その＋N	N
事象叙述	4.3	2.3	4.9	4.2
属性叙述	4.3	2.1	4.8	3.8

ある。なお、日本語の結果は、陳 (2014b) に基づいたものである。

表1と表2の結果から、指示対象が単数の場合、日本語では、第2文が事象叙述である方が属性叙述である場合より、指示詞の省略に対する容認度が高いと言える。しかし、中国語では、叙述の種類の違いがあるにかかわらず、指示詞の省略に対する容認度が低いことがわかった。課題1では、(9)の予測に反した結果となった。

4.2. 課題2について

先行詞が裸の名詞の場合、日中両言語とも指示対象が単数にも複数にも解釈可能である。よって、本研究は指示詞のマーカのない「N」、「Npl」とも指示詞の省略として考える。以下、4.1.と同様、aが事象叙述を表し、bが属性叙述を表している。

(問1) 部屋に男がいる。

- a. {その男/男/??その男たち/??男たち} はビールを飲んでいる。
- b. {その男/?男/?その男たち/??男たち} は酒が強い。

【中国語】 房間裡有男人。

- a. {那個男人/那些男人/?男人們/?男人} 正在喝啤酒。
- b. {那個男人/那些男人/??男人們/??男人} 酒量很好。

(問2) 私の家に留学生が遊びに来た。

- a. {その留学生/留学生/?その留学生たち/?留学生たち} は私の家族と一緒に晩ご飯を食べた。
- b. {その留学生/?留学生/?その留学生たち/?留学生たち} は勉強熱心だ。

【中国語】 有留學生到我家玩。

- a. {那個留學生/那些留學生/留學生們/?留學生} 和我的家人一起吃了晚餐。
- b. {那個留學生/?那些留學生/??留學生們/??留學生} 念書很認真。

(問3) 公園で子どもが遊んでいる。

- a. {その子ども/子ども/?その子どもたち/?子どもたち} は犬を追いかけている。

- b. {その子ども/?子ども/その子どもたち/?子どもたち} はかわいい。

【中国語】 公園裡有小孩子在玩耍。

- a. {那個小孩子/那些小孩子/孩子們/?小孩子} 在追著狗。
- b. {那個小孩子/那些小孩子/?孩子們/?小孩子} 很可愛。

(問4) 山田教授の研究室を学生が訪れた。

- a. {その学生/学生/?その学生たち/?学生たち} は、副助詞のについて教えてほしいと言った。
- b. {その学生/?学生/?その学生たち/?学生たち} はまじめだ。

【中国語】 山田教授的研究室有學生來訪。

- a. {那個學生/那些學生/學生們/學生} 問了教授關於副助詞的用法。
- b. {那個學生/那些學生/?學生們/?學生} 很認真。

(問5) 学校の近くで警察官が巡回している。

- a. {その警察官/警察官/?その警察官たち/?警察官たち} は近所の人に話しかけた。
- b. {その警察官/?警察官/?その警察官たち/?警察官たち} は親切だ。

【中国語】 學校附近有警察在巡邏。

- a. {那個警察/那些警察/警察們/?警察} 正在向附近居民問話。
- b. {那個警察/那些警察/警察們/?警察} 很親切。

課題2の結果を表3に示す。先行詞が裸の名詞の場合、照応詞の容認度は、高い順に次のようになる。

(10) 日: その+N > N > その+Npl > Npl
中: 那個+N = 那些+N > Npl > N

さらに、叙述の類型別に分けて集計すると、表4のようにまとめることができる。

表4から、指示詞の省略可能性は、「N」と「Npl」の違いはあるものの、日中両言語とも、事象叙述を表す場合が属性叙述を表す場合より、指示詞の省略に対する容認度が高いと言える。このことから、日

表3：【課題2】日中両言語における各項目の評定値の平均

	指示対象	中国語				日本語			
		那個 + N	那些 + N	Npl	N	その + N	N	その + Npl	Npl
事象叙述	男	4.4	4.1	3.6	3.1	4.8	4.5	2.9	2.7
	留学生	4.2	4.3	4.2	3.5	5.0	4.5	3.9	3.6
	子ども	4.3	4.1	4.3	3.0	4.8	4.1	3.9	3.7
	学生	4.5	4.4	4.1	4.3	5.0	4.7	3.7	3.9
	警察官	4.3	4.7	4.5	3.5	4.5	4.3	3.7	3.7
属性叙述	男	4.3	4.1	2.6	2.2	4.9	3.1	2.9	2.5
	留学生	4.5	3.7	2.7	2.0	5.0	3.3	3.7	3.2
	子ども	4.3	4.0	3.8	3.2	4.6	2.9	4.1	2.8
	学生	4.5	4.1	3.3	2.8	5.0	2.5	3.9	3.1
	警察官	4.1	4.1	4.3	3.6	4.7	2.9	3.7	2.7

表4：【課題2】日中両言語における叙述の類型別による評定値の平均

	中国語				日本語			
	那個 + N	那些 + N	Npl	N	その + N	N	その + Npl	Npl
事象叙述	4.3	4.3	4.1	3.7	4.8	4.4	3.6	3.5
属性叙述	4.4	4.0	3.3	2.8	4.9	2.9	3.7	2.9

本語においても、中国語においても、叙述の類型による影響があると言える。

以上のように、日本語では指示対象の数量が単数か否かに関係なく、文の叙述の類型による影響が観察された。

それに対し、中国語の場合、指示対象が単数の場合、叙述の類型を問わず、指示詞の省略に対する容認度が低いことがわかった。

なぜこのような違いが現れたのだろうか。次に指示対象が単数の場合と裸の名詞の場合に分けて考察を行う。

5. 叙述の種類の違いと指示対象の数量とのかかわり

5.1. 指示対象が単数の場合

中国語では、日本語と異なり、指示対象が単数の時、文の叙述の類型が事象叙述であれ、属性叙述であれ、指示詞の省略可能性が低いのはなぜだろうか。

第2文の叙述の類型が事象叙述の場合、時間軸のどこかで発生する出来事について述べるため、照応詞が個別的な指示対象であることが保証される。日本語においては、事象叙述が用いられることによって、照応詞が個別的な指示対象として読み取られると、先行詞と同定できることが陳 (2014b) で指摘されている。

一方、中国語では、照応詞が個別的な対象として

読み取られても、単数の指定がなければ、依然として先行文脈に現れた単数の指示対象と同定しにくいことが4.1.で明らかになった。

このように、中国語では、指示対象が単数の場合、文の叙述の類型を問わず、指示詞の省略に対する容認度が低いことは、日中両言語では、単数を表す制約が異なることに起因すると考えられる。

日中両言語はともに冠詞を持たず、単数・複数形という文法上の対立も存在しない言語である。しかし、中国語では、英語の「a (an)」に当たる単数を示すマーカ―は部分的に義務的であると述べられている (庵・張 2007)。

(11) a. There is a cat in the garden.

b. 庭に猫がいる。

c. 院子裡 有 一隻 猫。

庭 中 ある 一匹 猫

つまり、中国語の場合、照応詞を単数の先行詞と同じ指示対象として解釈するためには、照応詞にも単数のマーカ―が必要である。しかし、単数のマーカ― (一 + X + 名詞) のみでは、先行詞を限定する機能がないことが複数の言語によって実証されている (Downing 1986)。よって、事象叙述を表す述語が用いられ、指示対象が個別指示として解釈されても、照応詞の前の指示詞は省略できないと考えられる。

つまり、照応詞が先行詞と同一指示的だと解釈されるかどうかは、中国語では、照応詞が個別もしくは総称的に読み取られるかどうかということより、単数という数量が一致しているか否かということが大きな要因になっていると言える。

5.2. 指示対象が裸の名詞の場合

先行詞が裸の名詞の場合、中国語では、照応詞の容認度は「那個+名詞(その+N)」と並んで「那些+名詞(その+Npl)」でも高い結果が示された。つまり、先行詞の裸の名詞が、単数にも複数にも解釈可能であることを意味する。

それに対し、日本語では、陳(2015)および今回の調査結果から、照応詞が「その+Npl」の場合においても、「Npl」の場合においても、日本語母語話者の容認度が低いことが明らかになった。つまり、日本語母語話者は、先行詞の裸の名詞を単数として解釈しやすいと考えられる。

さらに、指示詞の省略に関して、日本語では、照応詞が裸の名詞の場合、中国語では、照応詞が名詞の複数形の場合、文の叙述の類型が事象叙述の方が、属性叙述の方より、母語話者の容認度が高いことがわかった。

このことから、照応詞が個別的な指示対象として読み取られやすい事象叙述の方が、そうでない属性叙述より、指示詞の省略に対する容認度が高いと言えるが、日中両言語とも、数量の情報が、照応詞が先行詞と同定できるか否かに影響を与えていると考えられる。

以上、中国語でも指示詞の省略が観察されること、さらに、一定の条件において、日本語と同様に、文の叙述の類型による影響が現れることがわかった。

6. おわりに

本研究は、中国語における指示詞の省略可能性について、文の叙述の種類の違いの観点から分析を行い、日本語と比較対照した。その結果は次の通りである。

- (a) 中国語では、指示対象が単数であれば、叙述の類型を問わず、指示詞の省略に対する容認度が低い。
- (b) 先行詞が裸の名詞の場合、中国語も日本語と同様、叙述の種類の違いにより、指示詞の省

略可能性が異なる。日中両言語とも叙述の類型が事象属性の場合は、属性叙述の場合より、指示詞の省略に対する容認度が高い。

指示詞を使用せず、照応詞を先行詞の指示対象と同定するためには、日本語では裸の名詞のみの使用が可能であるのに対し、中国では名詞の複数形を用いる必要がある。

このことから、日中両言語における先行詞の裸の名詞に対する解釈が異なること、さらに、指示詞の省略には叙述の類型、および先行詞と照応詞の数量の一致度がかかわることがわかった。

しかしながら、叙述の類型が事象叙述において、中国語では、指示対象が単数以外の場合、日本語では、指示対象が普通名詞の場合、指示詞の省略に対する容認度がすべて高いかについては、今回の調査ではまだ明らかになっていない。今後の課題としたい。

注

- 1) ハリディ・ハサン(1997)は、文法的結束性を指示、代用、省略に分けて説明している。語彙的結束性に関しては、再叙(同一語の繰り返し、同義語、上位語、一般語)とコロケーションというタイプがある。
- 2) 本研究は影山(2011:91)に従い、省略を「本来あるはずのものを省く」と定義する。省略が成り立つために、省略のない完全な文が元存在することが前提になる。
- 3) 「言語」、「空気」のような抽象名詞に対して、庵(2007)は「定可能性が低い名詞」、史(2008)は「定性が低い名詞」と述べている。本研究では、「定性が低い名詞」を「定名詞句として解釈されにくい名詞」と定義する。
- 4) 裸の名詞「学生」については、「三人の学生」のうちの一人や二人を指している可能性もあるため、「学生たち」ほど自然ではないと加藤(2006)は指摘している。陳(2014a)でも、自然であると判定する母語話者が五名のうち、一名のみである。
- 5) 叙述の類型に関して、詳しくは、益岡(1987)参照。
- 6) 名詞の性質により、調査の結果に影響を与えることを避けるために、本研究では普通名詞の中に

さらに、「人名詞」に限定して、調査文を作成した。

参考文献

- 庵功雄 (1994) 「定性に関する一考察— 一定情報という概念について—」『現代日本語研究』1, pp.40-56. 大阪大学文学部
- 庵功雄 (2007) 『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版
- 庵功雄・張麟声 (2007) 「日本語と中国語の「冠詞」についての覚書」『一橋留学生センター紀要』10, pp.29-36. 一橋大学
- 岩田一成 (2006) 「日本語数量詞の代名詞的用法と場指示語」『日本語文法』6-1, pp.38-55. くろしお出版
- 岩田一成 (2013) 『日本語数量詞の諸相— 数量詞は数を表すコトバか—』くろしお出版
- 奥津敬一郎 (1986) 「日中対照数量表現」『日本語学』5巻8号, pp.70-78. 明治書院
- 影山太郎 (2011) 『日英対照 名詞の意味と構文』大修館書店
- 加藤重広 (2006) 「日本語の複数形— 2つの複数と集合認知」『国語国文研究』130, pp.62(1)-48(15). 北海道大学国文学会
- 史雋 (2008) 「文脈における日中指示詞の対照研究」『一橋大学留学生センター紀要』11, pp.65-77. 一橋大学
- 史雋 (2012) 「日中指示詞の対照研究」平成23年度博士論文 (一橋大学), pp.1-126. 一橋大学機関リポジトリ <http://hdl.handle.net/10086/22864>
- 陳熾如 (2014a) 「日中両言語における指示詞の省略可能性— 名詞が表す数量の違いを焦点に—」『教育学研究ジャーナル』第14号, pp.1-9. 中国四国教育学会
- 陳熾如 (2014b) 「日本語における指示詞の省略可能性— 名詞の種類と述語に影響の観点から—」『広島大学教育学研究科紀要』第63号第2部, pp.261-268. 広島大学
- 陳熾如 (2015) 「日本語における指示詞の省略可能性に関する一考察」『平成27年度日本語学会秋季大会予稿集』日本語学会
- 益岡隆志 (1987) 『命題の文法』くろしお出版
- Downing, P. (1986) the anaphoric use of classifiers in Japanese. IN C. G. Craig ed. *Noun classes and categorization*. pp. 35-53. John Benjamins Publishing
- Halliday, M. A. K. and Hasan, R. (1976) *Cohesion in English*. Longman
- M. A. K. ハリディ・ルカイヤ ハサン (1997) 『テキストはどのように構成されるか』ひつじ書房

付記 本稿は2015年度日本語教育学会第9回中国地区研究集会での発表内容を加筆・修正したものである。